

発表原稿

1 ページ目

まず大学とは、幅広い知識を学び研究することで論理的思考力や課題発見力、課題解決力を身につける場であると国に定められています。

一方、社会的変化が加速しているため、変化に対して受け身でいるのではなく自ら新しい知識を採り入れ積極的に学ぶ技術や姿勢が求められる。

取り組みとして、文部科学省では「生きる力」の教育を推進し、アクティブラーニングを通して学びへの主体性や論理的思考力の教育を進めています。

また同様に、経済産業省でも「人生 100 年時代の社会人基礎力」を提唱しており、社会人として生きていく上で必要な能力として、「主体性」や「課題発見力」が言われています。

以上の背景から、様々な教育の場でアクティブラーニング(AL)が実施されています。ALとは、学習者が主体的に学ぶ学習方法の総称で、グループワークや PBL など様々なものがあります。

しかし現在大学で実施されている AL は学習内容の定着率を上げるために行われているものが多く、本来の AL や大学の目的に沿って行われていないという問題があります。

2 ページ目

AL の問題点についてです。教育の方法として、ラーニングピラミッドという考え方があります。これは学習方法と学習内容の定着率に着目したもので、講義や読書のような学習方法よりも自ら体験したり人に教えるような学習方法の方が、学習内容の定着率が高いというものです。

しかし一方、学習の定着率が高い学習方法・目的を AL として実施することが多いという問題があります。

3 ページ目

研究の構成です。

本来大学で AL を実施する際目標とされる能力から、それぞれ身につけるために必要な要素を書き出しました。これがその表になります。例えば主体性を身に付けるためには目標の設定やグループでの活動、進行方法や手順の確認をするべきと考えました。また、これらの項目に加えて、それぞれを定着するために振り返りと評価も行おうと思っています。

今後は表右側の要素を取り入れ組み立てることで、各能力を身に付けられる講義を構築、考案します。

以上です。